

参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	視点「試練のレファレンス」
著者 / 所属	岩波 祐子 / 行政監視委員会調査室
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	457 号
刊行日	2023-6-1
頁	2
URL	https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rip_pou_chousa/backnumber/20230601.html

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください（TEL 03-3581-3111（内線 75013）／ 03-5521-7686（直通））。

試練のレファレンス

行政監視委員会 専門員

いわたみ ゆうこ
岩波 祐子

調査室が所管する事項は非常に広い。霞が関で何十人もが担当している分野を数人、あるいは1人で担当することになったとき、何をどこまで勉強すればいいのか途方に暮れることもある。マーケティングで知られるパレート配分で言えば、売上げの8割は顧客の2割からもたらされる。つまり、重要な2割を押さえれば8割の成果は上がるはずなのだが、重要な2割はもちろん、想定される論点をくまなく押さえたつもりでも、顧客の関心が全く違うところにあることもある。

今から20数年前の話である。様々な資料を提供した海外派遣調査団が帰国した後、一枚の紙が届いた。絵??が描かれている。「この花の名前を調べてくれ」。今ならインターネットに画像で投稿すれば回答がつくかもしれないが、当時はインターネット時代の黎明期である。アナログの調査手法に頼るしかない。そう、博識な人に訊くのである。

幸い、当時、「信じられないくらい博識」な大先輩がいた。事情を説明すると、一瞥して「フクシアですね」。絵心もある方だった。御託宜を受けて百科事典で調べると、確かに地理的にも気候的にもその花に間違いなかった。

博識な方が退職された頃、職場でもインターネットが使えるようになった。国会図書館では海外雑誌のデータベースも見られるようになり、時間さえあれば大抵の調べ物は可能となり、「メキシコでのコンドルの意味を調べてくれ」という、以前なら絶句したようなレファレンスにもそれなりの確度で回答できるようになった。

その電話が鳴ったのは、大体のレファレンスに対応できると思っていた頃だった。当時担当していた何本も対案が出ている大型法案の「票読みをせよ」。そもそも調査員の業務なのか、という疑問を呈することはできない。議員がその法案にどれだけ真剣に取り組んでいるかも分かっていた。それだけに下手な回答はできない。しかし予想は必ず外れるリスクを伴う。どう転ぶか分からない状態、できるわけがない。

党議拘束がかかる法案であれば、事前の票読みは相当の確度で可能である。しかしこの法案は自主投票が大勢だった。個別の賛否予定まではとても追い切れるものではない。泣きたい思いで検索を続けると、有り難いことに信憑性の高いソースから複数の票読みが見つかった。多くの留保（言い訳）をつけて、甲案：○票から△票の間、乙案：●票から▼票の間……という表記でまとめ、回答した。投票時は生きた心地がしなかったが、結果的にはおおむね合致し、何とか信用を失わずに済んだ。

多くの資料が手軽に手に入り、チャットGPTなど、生成AIを使えるようになって、それだけでは解決できない問合せは残るだろう。そのときにどう対応するか、調査員は日々試されている。